

テーマ：2013年10-12月期GDP（2次速報値）の予測  
～ 1次速報からほぼ変わらずと予想 ～

発表日：2014年3月3日（月）

第一生命経済研究所 経済調査部  
 主席エコノミスト 新家 義貴  
[TEL:03-5221-4528](tel:03-5221-4528)

3月10日に内閣府から公表される2013年10-12月期実質GDP（2次速報）を前期比年率+1.2%（前期比+0.3%）と、1次速報段階の前期比年率+1.0%（前期比+0.3%）からほぼ変化なしと予想する。

本日公表された法人企業統計の結果が反映されることで、設備投資が下方修正、在庫投資が上方修正される見込みだ。GDP全体では僅かに上方修正だが、「設備投資の下方修正+在庫投資の上方修正」は好ましいものではなく、成長の内容としては1次速報からやや悪化する形になる。もっとも、修正幅は小幅であり、景気認識に変更をもたらすほどのものではないだろう。「外需が大きく足を引っ張る一方、内需が好調」という構図も1次速報段階から変わらない。

2013年10-12月期GDP2次速報予測		1次速報実績	
		（%）	
実質GDP	0.3	0.3	
（前期比年率）	1.2	1.0	
民間最終消費支出	0.5	0.5	
民間住宅	4.2	4.2	
民間企業設備	0.8	1.3	
民間在庫品増加（寄与度）	0.0	▲0.0	
政府最終消費支出	0.5	0.5	
公的固定資本形成	2.9	2.3	
財貨・サービスの輸出	0.4	0.4	
財貨・サービスの輸入	3.5	3.5	
名目GDP	0.4	0.4	
（前期比年率）	1.8	1.6	

※断りの無い場合、前期比（%）  
 （出所）内閣府「国民経済計算」、第一生命経済研究所

設備投資は下方修正が予想される。本日公表された法人企業統計では、名目設備投資が季節調整済み前期比▲0.3%の小幅減となった。QE推計において実施されている法季のサンプル要因を除去するための断層調整を行っても弱い結果であり、GDP設備投資の下方修正要因になるとみられる。GDP1次速報段階で反映されていなかった12月分の供給側統計については上方修正要因となるが、法季の下振れが勝り、GDP2次速報の設備投資は前期比+0.8%に下方修正されると予想する（1次速報：前期比+1.3%）。設備投資は緩やかに持ち直していると判断されるが、そのペースは未だ鈍い。

在庫投資は前期比寄与度+0.0%Ptと、1次速報（▲0.0%Pt）から若干上方修正されると予想する。流通在庫の上方修正が寄与する見込み。そのほか、1次速報段階で未公表だった12月分の建設総合統計の結果が反映されることで、公共投資は前期比+2.9%と、1次速報段階の前期比+2.3%から上方修正されると予想する。